

# 目次

はじめに .....	4
1. 事業計画 .....	6
1-1 事業の概要 .....	6
1-2 効果的な学習プログラムの開発に係るスケジュール .....	9
1-3 連携協議会及びコーディネーター .....	12
1-4 成果等の普及 .....	13
1-5 コンファレンスの実施 .....	17
2. 第一回オープンキャンパス .....	17
2-1 準備及び広報 .....	17
2-2 カリキュラム内容 .....	18
2-3 開催レポート .....	25
2-4 参加者集計 .....	28
2-5 受講者の感想 .....	30
2-6 まとめ .....	36
3. 第二回オープンキャンパス .....	37
3-1 準備及び広報 .....	37
3-2 カリキュラム内容 .....	37
3-3 開催レポート .....	42
3-4 参加者集計 .....	47
3-5 受講者の感想 .....	49
3-6 まとめ .....	54
4. 第三回オープンキャンパス .....	55
4-1 準備及び広報 .....	55
4-2 カリキュラム内容 .....	55
4-3 開催レポート .....	56
4-4 参加者集計 .....	61
4-5 受講者の感想 .....	63
4-6 まとめ .....	66
5. 第四回オープンキャンパス .....	68
5-1 準備及び広報 .....	68
5-2 カリキュラム内容 .....	68
5-3 開催レポート .....	69
5-4 参加者集計 .....	72

5-5	受講者の感想	74
5-6	まとめ	78
6.	第五回オープンキャンパス	79
6-1	準備及び広報	79
6-2	カリキュラム内容	79
6-3	開催レポート	87
6-4	参加者集計	90
6-5	受講者の感想	92
6-6	まとめ	96
7.	第六回オープンキャンパス	97
7-1	準備及び広報	97
7-2	カリキュラム内容	97
7-3	開催レポート	100
7-4	参加者集計	104
7-5	受講者の感想	105
7-6	まとめ	108
8.	第七回オープンキャンパス	109
8-1	準備及び広報	109
8-2	カリキュラム内容	109
8-3	開催レポート	114
8-4	参加者集計	118
8-5	受講者の感想	119
8-6	まとめ	123
9.	訪問講義	124
9-1	概要	124
9-2	受講者の記録	128
9-3	まとめ	187
10.	共生社会コンファレンス	188
10-1	開催プロセス	188
10-2	広報と受付	189
10-3	プログラム構成	192
10-4	開催報告	204
10-5	まとめ	219
11.	連携協議会	220
11-1	第一回開催概要	220
11-2	第一回開催内容	221

1 1 - 3	第二回開催概要 .....	222
1 1 - 4	第二回開催内容 .....	223
1 1 - 5	第三回開催概要 (最終報告会) .....	223
1 1 - 6	第三回開催内容 .....	224
1 1 - 7	まとめ .....	225
1 2.	総括 .....	227
1 2 - 1	成果と効果 .....	227
1 2 - 2	まとめ .....	230
1 2 - 3	次年度に向けて .....	231
	参考資料 .....	235

## はじめに

本事業は文部科学省・総合教育政策局男女共同参画共生社会学習安全課障害者学習支援推進室主幹の「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実」に向けた政策の一環として行われたもので、取組の趣旨は「学校卒業後の学びや交流の機会整備」「生涯のライフステージを通じた学習活動の充実」である。

平成 26 年に日本が障害者権利条約を批准し、平成 28 年には障害者差別解消法が施行されるなどノーマライゼーション社会の実現に向けての取組が加速する中で、平成 29 年に松野博一文科相（当時）が「特別支援教育の生涯学習化に向けて」としたメッセージが発せられ、同年度に文科省生涯学習政策局に「障害者学習支援推進室」を新設、同時に省内各部署から横断的にオブザーバー参加する「特別支援総合プロジェクト 特命チーム」が結成されたことから障害者の生涯学習に関する政策が具体的に動き出したことから始まる。

平成 30 年度に文科省は「学校から社会への移行期と、生涯の各ライフステージにおける効果的学習に係るプログラム・実施体制等に関するモデル開発」を目的とした「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」事業を開始し、初年度は自治体、大学、社会福祉法人等全国 18 団体に委託し、この中で一般財団法人福祉教育支援協会は地域で市民と障がい者が学びあうオープンキャンパス事業を中心にしたプログラムを展開し、「障がい者と市民が学びあう」スタイルを実践検証し、2 年目となる令和元年度には、この学びあいの形を他地域でも実践するとともに、初年度の調査で明らかになった重度障害者の学びのニーズを受け止め、実践を通じてのカリキュラム開発も計画し、新しい障害者の学びの世界を確実なプロセスとコンテンツを開発することで多くの受益者につながるようとの考えで、本事業を遂行した。

本事業を行う一般財団法人福祉教育支援協会は、平成 27 年にコミュニケーションを重視したプログラムで就労支援を行うことを主眼に就労移行支援事業所シャローム所沢（埼玉県所沢市）開設とともに同市に設立された。平成 28 年には埼玉県和光市に初めてとなる就労移行支援事業所であるシャローム和光、平成 29 年に計画相談事業所シャローム新倉（埼玉県和光市）、令和元年度に就労移行支援事業所シャローム浦和（同さいたま市）を設立した。さらに就労支援に関して企業側の啓蒙活動の活発化に向けて、障がい者雇用推進センター（東京都中央区）、障がい者と企業の良好なマッチングの活性化に向けて職業紹介事業所シャローム日本橋（同）を設立するなど障がい者の就労に関しての教育とその具体的な戦略に関する事業を行っている。これら福祉事業を行う際のキャッチフレーズは「つながる、からはじまる」であり、地域のリソースや障害者の「思い」をつなげて、「願い」を実現しながら、よりよいコミュニティを作ることを心掛けている。

また平成 28 年夏からは、福祉の現場を広く認知してもらい企業との橋渡しの役割を考え、啓蒙媒体及び当事者の発表の場として季刊「ケアメディア」を発行、全国の約 50 の事業所の広報媒体として機能している（2020 年新年号は 30000 部発行）。

これらの活動の中から、とりわけ就労支援の実践から「学び」の必要性を強く実感し、そ

の具体的な対応を先駆者たちとの積極的な交流の中で研究し、シャローム大学校（埼玉県和光市）を開設し、障がい者の学びへのニーズに応える取組を実践している立場である。

この立場から特別支援が必要な18歳以降の方々への教育の確立を目指して、初年度の本事業では広く障がい者に学びの機会を提供するために、「オープンキャンパス」として参加してもらうプログラムを考え、「基礎教育ステージ」、「関わりあいステージ」、「実践教育ステージ」構成で、埼玉県和光市や同さいたま市で「学ぶことは楽しい・面白い」を実感してもらうカリキュラムを実施した。初年度の検討を受けて令和元年度は、本拠地である埼玉県和光市、さいたま市で地域のコミュニティとともに開催するオープンキャンパスとして実施するとともに、オープンキャンパスを全国どこでも開催可能にするモデル化を目指し、静岡県伊東市、長野県佐久市での実施を試みた。さらに、農業活動との連携を見据えてさいたま市のNPO法人とともに「田んぼでの稲刈り」「畑でのフィールドワーク」も行った。

オープンキャンパスとは別に医療ケアの必要な重度障害者に対する学びのコンテンツを研究開発に向けて東京都内の4人（男性2人、女性2人）に対しても年間15回程度の講義を実施し、その内容の妥当性も検討した。

本事業報告書は、文部科学省に提出の事業報告書内容の掲載、連携協議会の内容やオープンキャンパスの流れやテキスト、受講生の感想、感想のモデル提示、さらには重度障害者の学びの実践記録、カリキュラム内容、今年度初めての開催となった「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」の開催プロセスや内容などで構成されている。最終的には取組の成果として抽出した課題の解決に向けて今後の取組を整理して次年度以降の狙いを示し、3年目の成果を見据えたいと考えている。

本事業コーディネーター  
一般財団法人福祉教育支援協会/シャローム大学校  
引地達也

## 1. 事業計画

### 1-1 事業の概要

東京都下及び埼玉県下・関東近郊の発達障害・知的障害・精神障害のために「学びにおいて支援が必要な方々」、さらに私立や公立の特別支援学校在校生及び卒業生、現在就労移行支援事業所等の福祉施設に通所する「学びを求める方」等を対象に、これらの方々が生涯の「学び」の確実性を確保するため、また社会での生きがいややりがいを考えられる素地を育成するために、昨年に引き続き「オープンキャンパス」を実施し、それぞれの障害がある方々と支援者、そして一般の方々が、ともに関わりあい、学びの面白さを気付いていただくとともに、社会で活躍できるステージをイメージすることを目的に、その内容の妥当性を広く一般への普及や継続した学びの有効性を観点とし検討・開発していく。同時に「オープンキャンパス」に来られない状態にある医療ケアの必要な方々には「訪問講義」として、講師が訪問して講義を行う事業も加え、18歳以降で医療ケアの必要な方々への学びのニーズやその学びの在り方も研究していく。

本開発プログラムは、学びの基本として、以下3ステージのフローで展開し、各地域から参加する受講生がともに学び合うなどの交流も交えて学びの面白さを体感することを主眼としている。訪問型に関しても、受講者のニーズを踏まえながら、学びがより生きがいにつながることをイメージして内容を構築していく。

- ・基礎教育ステージ 学び方やものの成り立ち、生き方や考え方などの基本について考える
- ・関わりあいステージ 地域に関するフィールドワークを通じて、参加者とともに関わりあい、その中から協力し学んでいく面白さや社会参加の楽しさを実感
- ・実践教育ステージ 社会における自己を意識した上で、何をどのように学ぶのが有効かを考えながら、資格取得等の実務に近い学習を行い、仕事と学びの一体感を体験してもらう

初年度に合計6回のオープンキャンパスを実施したことで、授業の伝え方、時間配分、サブティーチャーの役割等の基本的な知見は得ており、この妥当性や有効性をさらに確かめながら、受講者の反応から本プログラムが社会性・協調性の育成など、今後社会で生きていくための力を養えるかを大きなポイントとして、検討する。さらに拠点となる埼玉県和光市は勿論、開催地の自治体や福祉関連領域、教育関係、そして市民など地域との連携の最適化も研究していく。

本研究を進めるにあたっては、様々な知見を持つ方々で構成される連携協議会で活発に議論・検討していただくのは勿論、コーディネーターを中心とした研究チームが、当事者の声を反映することが最も大切だと考え、視察等を含むフィールドワーク、面談や調査、ヒアリングも進めていく。さらに現在、一般財団法人福祉教育支援協会が運営する就労移行支援事業所シャローム所沢及びシャローム和光に通所している特別支援学校卒業生、そして法定外シャローム大学に通う学生に関しては、定点的な検証をすることにより研究の精度を高める材料であると考えている。

このすべての過程において、社会における障害者の学びの可能性を広く世の中に伝える

ために、「ケアメディア推進プロジェクト」と連携し、季刊「ケアメディア」（発行実績・1号につき20000部～30000部）、オンライン「ケアメディア」及び、精神系ポータルサイト「サイキユレ」、ニュース解説サイト「ニュース屋台村」等のメディアにて本取組を紹介し、1月につき、平均2万人へのアウトリーチを継続する。

また本プログラムは地域において、何らかの理由で通学が困難な状態にある方へも対応するために、オンライン及びDVDによる学習も可能にすることで、多くの「学びたい」気持ちに対応することを念頭に、映像化とその普及も視野に置く。すでに初年度の映像化は公開予定であり、2年目は「より映像化を意識した編集」に向けて取り組む予定である。

これらの研究開発の結果として、他地域でも実行及び展開可能なプログラムを、授業の内容、コーディネーターの役割、連携の在り方の妥当性を示したうえで提示する。

また2019年度開学のシャローム大学校においても、カリキュラムの実効性を高めるために実践研究を継続して行う。

#### ■目標

初年度事業を受けて2019年度では他地域や簡易バージョンや日程の設定などでさらなる可能性を広げることを考えながら、一般的な通学・招集型の学びとともに医療ケアの必要な方々に対する訪問型※の学びの両面から、「カリキュラム」「連携の在り方と枠組み」「各ポジションの役割」等、障害者が学ぶことに効果的かを検証し、実践に向けての的確で汎用可能な「学びの場の在り方」とそのプロセスを提示する。

- ・カリキュラムの妥当性—テーマ設定（テーマ項目を広げる）、時間配分、教え方、サブティーチャーの役割等
- ・連携の在り方と枠組み—地元自治体や教育機関、NPO等との連携の的確性等、今後の展開に向けた講師養成の観点からの検証
- ・各ポジションの役割—効果的な学びに向けての連携協議会のあり方と関係機関の働き方、運営にあたっての必要な人材とのつながり

※通学型—決まった場所に受講者が通い学ぶスタイル

招集型—不特定の開催地に開催する際のみ受講者を集めるスタイル

訪問型—自宅や医療機関、入所施設など外出が困難な受講者に訪問するスタイル

#### ■目指す方向性

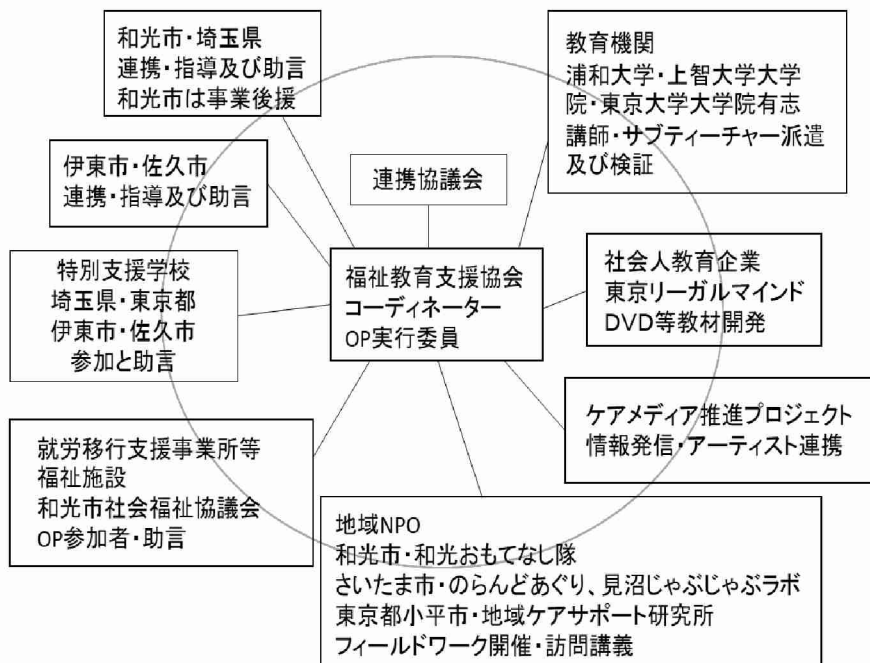
初年度を受けて、2年目以降は、障害者の生涯学習に向けて有効なスタイルを確立させ、他の地域での実践を経て、通学型であれ、招集型であれ、訪問型であれ、「どこの地域でも運用可能な形」を提示、展開可能とする。その結果、障害者の生涯学習が一般的な選択として地域に根付いている社会を目指したい。このために講師の育成やボランティア養成なども全国的に展開する状態に向けて取り組みたい。

同時に学習に際して支援が必要な方や特別支援学校卒業生向けの「大学」教育を行う「シ

ャローム大学校」において、2年プログラム、4年プログラムのカリキュラムに反映させ、実践の中で研究開発を継続し、最も有効な学びを確立させる。

このシャローム大学校では本件事業で養われたノウハウを基本に全国でオープンキャンパスを開催し、障害者の学びの可能性を広げるべく、確かな実績のもと、各地域とつながって、単独で行えるような準備を整えていく。

### ■全体像



### ■オープンキャンパス全体像

開催地	基礎教育ステージ	関わりあいステージ	実践教育ステージ
和光市	生命って何？		
和光市		ごみひろいしよう	
和光市			ビジネスマナー
さいたま市	畑で何ができるのか		
さいたま市		見沼田んぼで稲刈り	
伊東市	自然科学の実験から対話を学ぶ		
佐久市		メディアを知って使ってみよう	



■訪問講義全体像

対象	前期(4月～7月)	夏休み期間(8月～9月)	後期(10月～1月)
東京都内A氏	12回講義	外出レクレーション(1回)	12回講義
埼玉県内B氏	12回講義	外出レクレーション(1回)	12回講義
埼玉県内C氏	12回講義	外出レクレーション(1回)	12回講義
埼玉県筋ジストロフィー協会	招集型でデモ講義	希望者と個別協議	招集型でデモ講義
東埼玉病院	病院内で招集型講義	希望者と個別協議	病院内で招集型講義

1-2 効果的な学習プログラムの開発に係るスケジュール

開催月	内容
7月	第一回連携協議会開催 東京都及び埼玉県内の特別支援学校に「オープンキャンパススケジュール案内」と受付開始 オープンキャンパス運営委員会、模擬授業案の検討
8月	第一回オープンキャンパス開催 埼玉県和光市 研究検討委員会・運営委員会
9月	第二回オープンキャンパス開催 長野県佐久市 アンケート調査結果発表
10月	第三回オープンキャンパス開催 静岡県伊東市 第四回オープンキャンパス開催 埼玉県和光市 第五回オープンキャンパス開催 さいたま市緑区
11月	第二回連携協議会開催 一般社団法人日本LD学会 第28回大会(東京) 自主シンポジウム開催
12月	第六回オープンキャンパス開催 さいたま市緑区
1月	第七回オープンキャンパス開催 埼玉県和光市
2月	第三回連携協議会開催 報告書作成 本事業報告会開催
3月	事業報告書提出

■オープンキャンパス概要とスケジュール

対象：学びたいと考える障がい者、障がい者と学びたいと考える方々（対象年齢は18歳以上）

参加費；無料

参加受付；シャローム大学校、事前申し込み制

### 第1回 基礎教育ステージ

日時	8月28日(水) 午前10時30分～12時
場所	和光市中央公民館(〒351-0113 埼玉県和光市中央1丁目7-27)
講義科目	いきものってなんだろう？—いのちから私たちを考える
講義内容	いきものなりたちについて、細胞や医学などからわかりやすく伝えます。
講師	佐藤玄・シャローム大学校教授(元杏林大医学部講師)

### 第2回 基礎教育ステージ

日時	9月25日(水) 午前10時～14時30分
場所	佐久市民創錬センター(〒385-0043 長野県佐久市取出町183)
講義科目	午前 学ぶとはなにか—哲学と自然科学 午後 声を出してメディアコミュニケーション
講義内容	午前 まなぶことについて哲学と自然科学から考えます。自然科学では受講者が科学実験を行い、体感してコミュニケーションを学びます 午後 ピアノとコーラスで、声を出すこととコミュニケーションを考えます。みんなでコーラスや音遊びをしながら、コミュニケーションの大切さを学びます
講師	午前・九里秀一郎・浦和大学教授 午後・ピアノコーラスグループ、サーム・シャローム大学校客員教授 河辺朋久・シャローム和光施設長 ファシリテーター 引地達也・シャローム大学校学長

### 第3回 基礎教育ステージ

日時	10月9日(水) 午前10時～14時30分
場所	伊東市観光会館別館(〒414-0024 静岡県伊東市和田1-16-1)
講義科目	午前 学ぶとはなにか—哲学と自然科学 午後 声を出してメディアコミュニケーション
講義内容	午前 まなぶことについて哲学と自然科学から考えます。自然科学では受講者が科学実験を行い、体感してコミュニケーションを学びます 午後 ピアノとコーラスで、声を出すこととコミュニケーションを考えます。みんなでコーラスや音遊びをしながら、コミュニケーションの大切さを学びます
講師	午前・九里秀一郎・浦和大学教授 午後・ピアノコーラスグループ、サーム・シャローム大学校客員教授

	河辺朋久・シャローム和光施設長 ファシリテーター 引地達也・シャローム大学校学長
--	---

#### 第4回 かかわりあい教育ステージ

日時	10月16日(水) 午前10時30分～12時
場所	さいたま市緑区・見沼田んぼ(さいたま市緑区南部領辻付近)
講義科目	昔からの田んぼで稲刈り×ごはんとわら投げ
講義内容	地域の人とともに見沼田んぼで稲刈りを行い、おいしいお米でごはんをいただき、自然を使っのゲームも行います
講師	NPO 法人見沼じゃぶじゃぶラボ

#### 第5回 かかわりあい教育ステージ

日時	10月26日(土) 午前10時～12時
場所	就労移行支援事業所シャローム和光及び和光市駅前広場
講義科目	五輪を知ろう×ごみひろいでおもてなし
講義内容	2020年東京オリンピック・パラリンピックの射撃会場となる和光市地域で、地元代表選手を通じて五輪を知り、地元で活動する「和光おもてなし隊」とともに清掃を実施します
講師	和光おもてなし隊(井上明次会長) ファシリテーター 引地達也・シャローム大学校学長

#### 第6回 かかわりあい教育ステージ

日時	12月4日(水) 午前10時30分～12時
場所	さいたま市緑区のらんどあぐり管理の畑及びフィールド(さいたま市緑区南部領辻付近)
講義科目	畑のできるもの、畑で作るもの
講義内容	畑からできるものを学び、一緒に焼き芋を行い、フィールドゲームで楽しむ
講師	NPO 法人のらんどあぐり(サカール祥子さん)

#### 第7回 実践教育ステージ

日時	2020年1月18日(土) 午前10時30分～12時
場所	就労移行支援事業所シャローム和光
講義科目	ビジネスとコミュニケーション—素敵に交わり話し合う
講義内容	仕事の現場やビジネス社会での人との対話のやり方をわかりやすく、体感しながら楽しく学んでいきます

講師	林真理子・シャローム大学校研究員、ビジネスマナー講師
----	----------------------------

※フィールドワークは雨天注意の場合あり

※会場は都合により変更することもあります

## ■訪問講義概要とスケジュール

### 受講者

- ・佐藤友哉さん（NPO 法人ケアサポート研究所、担当：下川和洋）
- ・増田厚子さん（同、担当：阿部晴美）
- ・山本利恵さん（同、担当：溝井勝広、宍戸芳子）
- ・岩村和斗さん（シャローム大学校、担当：引地達也）

期間；2019年4月－2020年1月

## 1-3 連携協議会及びコーディネーター

### ①携協議会の構成員

氏名	所属・役職等	備考欄
九里秀一郎	浦和大学総合福祉学部教授	
小林節子	特定非営利活動法人見沼じゃぶじゃぶラボ代表	
唐沢隆弘	東京リーガルマインド執行役員	
大槻一敬	ケアメディア副編集長	
高橋基成	元東京都・埼玉県特別支援学校教諭	
田中瑛	東京大学大学院・学際情報学府学際情報学博士課程	
佐光紀子	翻訳家（法定外シャローム大学教授予定者）	

### ②具体的な行動内容

#### 【メンバー構成】

連携協議会は、本事業の構成要素である関係機関の関係者らで構成され、それぞれの立場から検討。討議しよりよい運営を助言しリードしていく。

#### 【基本的な連携協議会の流れ】

開催のお知らせ・協議内容の事前告知

↓

開催、協議、記録、報告、協議内容は事後活動に反映

↓

開催内容・開発プログラムの向上

↓

成果物に反映

### 【連携協議会の役割】

本事業のより高い成果に向けて、教育プログラムの内容だけではなく、地域連携の在り方や講師・スタッフ・サブティーチャー、ボランティアなどの動き方、連携の在り方をそれぞれの領域の立場と知見から検討し、他地域でも展開可能とし、なおかつ教育的内容の優れた効果的なプログラム開発を確実にする役割を担う。

連携協議会の委員は連携が必要と思われる自治体や団体、研究や教育に関する関係機関・企業の有識者で構成され、教育的観点からの意見をはじめ、受講者の立場、プログラムの展開のしやすさ、発展形のイメージなど、多角的な視点でプログラムを精緻化していく。連携協議会は協議材料として、プログラム内容をすべて提示するが、授業参加も促す。

また授業後の検討委員会は授業に関する検討・意見集約の場であるが、協議会委員も参加可能とする。さらには授業を映像化して、検証するとともに、今後映像化して在宅学習並びに遠隔学習も可能かなどの視点でも協議する。授業と協議会、及び開発・成果物の抽出に向けて一体化した取り組みを目指す。

### ③コーディネーター：引地達也

本事業の中心的な講師も務める引地達也は、障害者や特別支援学校の卒業生を対象にした学びの場であるシャローム大学校学長として、また障害者向けの就労移行支援事業「シャローム所沢」「シャローム和光」、計画相談事業所「シャローム新倉」、障害者向け人材紹介事業所「シャローム日本橋」、障害者雇用を推進する「障がい者雇用推進センター」を統括する立場であり、これらの組織を束ねる一般財団法人福祉教育支援協会の上席研究員である。

また障害者福祉の現場と一般社会との結びつきを考えるためのメディアを「ケアメディア」という言葉で表現し、「ケアメディア推進プロジェクト」代表を務め、約20000万部のフリーペーパー「ケアメディア」編集長として障がいや疾患に向き合いながら、その声を広く伝えることを日常業務としている。

初年度の文部科学省 2018 年度「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」委託を受け、コーディネーターとして活動し、自身も障害者向けのオープンキャンパス全6回を講師及びファシリテーターを務めた。文部科学省 2018 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」委託を受け、実施委員会委員長も務める。

コーディネーターは、本事業の準備から教育プログラム（報告書提出）まですべての行程に関わり、参加することを基本としている。

## 1-4 成果等の普及

### ① 普及の方法

本事業の取組はそのプロセスも発信することで、成果物だけではなく、その取り組みそのものを社会に広く認知してもらい、より多くの知見が集まることも目指す。

具体的な発信媒体は、

- ・一般財団法人福祉教育支援協会のHP
- ・一般財団法人福祉教育支援協会が運営する就労移行支援事業所シャローム関連のソーシャルメディア
- ・季刊「ケアメディア」
- ・精神系ポータルサイト「サイキュレ」、一般ニュース解説サイト「ニュース屋台村」

そのほかコーディネーターはじめ関係者がかかわる雑誌・ラジオ等のメディア

上記のプロセスを経た上で、本事業の成果物を「報告書」として冊子化（出版化）、成果報告会も開催する。

## ②見込まれる成果・効果

### 【学習プログラム講義】

- ・授業の項目と内容：内容設定と伝え方、言語の選択や作図の適性化などの授業の進め方について検証し、最適化を開発
- ・時間配分：90分授業を区切りながらの進行が有効かを検証し5回のプログラムを経て適性化
- ・サブティーチャーの役割：想定人数2-3人に1人という割合のほか、どのような「介入」「指導」の方法が有効かを検証し開発

### 【受け手側の反応】

- ・受講者の学習意欲：レポートやアンケートをもとに「何が学びに必要か」を検証し成果物に反映させる
- ・人格形成への有効化：連携協議会や検討会、サブティーチャーの感想などから受講者の心の変化などをくみ取りながら、何が授業で有効であったかを提示
- ・社会性を身に着けるための有効化：授業をすることによって、協調性や協働性の変化があったのかを検証し、そのポイントを検出する

### 【コンテンツの可能性】

- ・映像化コンテンツの展開：授業及びプログラムを映像化して、今後の展開を検討  
映像化コンテンツ検証：数か所の就労移行支援事業所に通所する希望者向けに映像コンテンツを提示し、感想レポート。
- ・さいたま市地域で実施した本プログラムを他地域でも実施。今回の事業をパッケージ化し、どこでもやりやすい形を提示するための検証を行う
- ・要支援者向けの大学校での学習単位に準じたプログラムへと進化させていき、効果的な「学び」の提供を可能とすること  
2カ年かけての想定単位は以下であり、この科目に今回の成果に対応させながら開発を

進めていく。

【基礎課程履修科目（2年）】

科目区分	授業科目	1年 単位	2年 単位	開設 単位	必須 単位
基礎科目	言語と生活Ⅰ	4		4	8
基礎科目	言語と生活Ⅱ		4	4	
基礎科目	芸術と生活Ⅰ	4		4	8
基礎科目	芸術と生活Ⅱ		4	4	
基礎科目	科学技術と生活Ⅰ	4		4	8
基礎科目	科学技術と生活Ⅱ		4	4	
基礎科目	人間と生活Ⅰ	4		4	8
基礎科目	人間と生活Ⅱ		4	4	
基礎科目	健康と生活	2	2	4	4
基礎科目	情報と生活	2		2	2
演習	基礎演習Ⅰ	4		4	8
演習	基礎演習Ⅱ（課程修了論文）		4	4	
実習1	オリエンテーションⅠ	2		2	4
	オリエンテーションⅡ		2	2	
実習2	ボランティア活動Ⅰ	2		2	4
	ボランティア活動Ⅱ		2	2	

② 3年度事業を想定した展開

3年度間をイメージした展開は以下の通りである。本事業の研究開発で抽出されたアウトプットは2年目で「実証」として、再度オープンキャンパス開催で修正点を含めて完成させるとともに、今回の事業主でもあるシャローム大学校内のプログラムにおいて、実際に研究開発されたノウハウを生かしたカリキュラムを1年通じて実践することで、研究開発の実証をしていく、さらには講義を映像化して他地域での教育効果なども実験していく。この結果を受けて3年目は継続してオープンキャンパスと大学校の授業でも実践を行うとともに、実際に他地域でのオープンキャンパスを開催し、より広範囲で「学び」の機会を提供できる環境整備に向けた取組を行い、本プログラムを全国で行いたい場合のガイドラインを作成し、全国に展開する支援を行う。

	期間の 位置づけ	主な内容	成果イメージ

1年目	研究開発	オープンキャンパス開催 (本事業)	講義内容等のフォーマット化等(本事業)
2年目	実証	オープンキャンパス開催 シャローム大学校で検証	1年目の成果を効果測定し、展開可能な型をフォーマット化、映像での遠隔地参加やDVDによる時差参加を含めて実験と検討 →展開可能な学びの形を抽出
3年目	展開	オープンキャンパス開催 シャローム大学校で検証 他地域での講座開催 DVDによる他地域開催	各地域でのオープンキャンパスや講義参加を可能とする仕組みより多くの地域で実行してもらう ↓ より多くの障害者が「学び」の機会を得て、「学び」の楽しさを知り、地域や他者とつながり、ともに生きることをシェアする素地を養う。

また、本事業での開発をベースに実際の大学校の単位取得の中で、各科目の授業設定や履修の仕方を研究していく。現在2年で習得想定している基本科目は7で項目を記載している以下である。

- ・言語と生活—ことばとコミュニケーションについての基本を学ぶ
- ・芸術と生活—絵画や音楽、そのほかの感性を表現することについて学ぶ
- ・科学技術と生活—世の中の仕組みを科学の視点から考える
- ・人間と生活—人とは何かを体の構造(自然科学)から、社会学、倫理学を踏まえて学ぶ
- ・健康と生活—食事や健康維持の方法等、自己管理するための学び
- ・ボランティア活動—東日本大震災の被災地の重度障害者施設への合宿活動
- ・フィールドワーカー—地域とつながり、地域の成り立ちを屋外で調子、生徒たちどうして協力しながら学ぶ

3年間の取組は、シンポジウムや学会などを通じて広く検証結果を知ってもらい、出版化・冊子化により各地域で、自治体や地域のファシリテーターが中心になって開催するのを可能とする仕組みにしていきたい。



## 1-5 コンファレンスの実施

本事業を初年度通して行った実感として「障害者の生涯学習」の新しい概念が伝わっていないことによる教育現場や自治体の戸惑いを強く感じたことから、以下の点を主眼に置いて、新しい概念を示すとともに、具体例とその動き方をわかりやすく伝え、そしてその場で「コミュニティ化」して動けるような会合を目指して「カンファレンス」を実施する。

具体的には

- ・障害者の生涯学習の有効なやり方を初年度で実施した「オープンキャンパスの授業」の体験（初年度では特別支援学校教員が参加し、その結果学校で実践した経緯がある）
- ・カンファレンス開催に向けて、それぞれの課題別に分科会を設定し、そのリーダーを決めて、分科会開催を連動させ、コミュニティ化を具体化する
- ・関東周辺ですでに実践している方々をネットワークすることで、それぞれの動きだけではなく「思い」も共有し、社会的気運を高めて障害者学習のエンジンとなる
- ・支援者と当事者が一体となって作るカンファレンスを作ることによる「発信力」を高め、広くその存在を知ってもらう役割を確実に果たす

上記の考えを実現するために、大きなコンセプトとして以下3点とする

- 1 誰もが水平に学ぶ場づくり
- 2 一緒に考え、食べて、語って、動く
- 3 ここでつながって次へとつなげるコミュニティにする

実施にあたっては、各専門家で構成される実行委員会を構成し内容を協議したうえで進行する。開催後も課題を抽出し、報告書として取りまとめ内容を承認したうえで公表し、次年度以降の取組に役立つよう尽力する。

### 【開催地と事務局】

開催地 東京都内

開催事務局及び実行員会所在地—東京都中央区日本橋堀留町1-11-5 日本橋吉泉ビル2階 一般財団法人福祉教育支援協会東京事務所内

## 2. 第一回オープンキャンパス

### 2-1 準備及び広報

和光市内には約150か所の公設掲示板があり、同市広報課から印章を受けたチラシが1か月期限で掲示許可が与えられる仕組みがあり、これを利用して全掲示板に貼付した。さらに関係機関への郵送も行い周知した。使用したチラシは以下である。



	自己紹介タイム 同	各テーブルでチームリーダーの指名（ぬいぐるみで印付け） ＜自己紹介のやり方＞ 1 白い紙にクレヨンで名前を書く 2 以下のうち1つを選んで話をする ・はまっていること ・面白かったこと ・食べておいしかったもの ・楽しかったこと
1040	クイズでコミュニケーション	クイズ3題、チームごとに解答
1100	科学実験 佐藤玄・シャローム 大学校教授（元杏林大医学部講師） 科学実験「いろいろなもののDNAを抽出してみよう」	※以下カリキュラムは配布資料参照  バナナやレバー、玉ねぎ等のDNAを抽出
1150	まとめ・感想文記入	
1200	終了	

10時30分の開始とともにコーディネーターの引地達也があいさつをし、本事業の取組の概要と全体像、そして講義を受けるにあたっての注意事項と、心構えを話した。ここまでは全講義共通であり、それぞれのチームには「サブティーチャー」として支援者もしくは当事者でとりまとめが可能な方がリーダーとしてあらかじめ決め、その指名を行った。指名された人はコーディネーターから手の大きさのぬいぐるみが投げられ、それをキャッチすることで、ビジュアル的にも楽しみながらリーダーを認識する試みを行った。

その後、各チームでA4を三等分した細長い紙にクレヨンで好きな色で自分の名前を書いてもらい、自己紹介を行った。各チームで自己紹介をした後は、各チームの「チーム名」を決めてもらった。その後はその名前を使ってチーム対抗でクイズ大会を行った。コーディネーターから出題したものにチームで考え解答する方式で、初対面も多い参加者の関係構築を試みた。

以下がオリエンテーションの資料である（基本的に全オープンキャンパスを通じて共通である。ポイントは以下4つを伝えることで、学びへの導入を意識してもらおうと同時に柔らかい雰囲気を作ることも目的としている。

- ・出会いを喜ぼう
- ・オーバーアクション
- ・よく笑おう
- ・新しいものを感じよう

この4項目は本事業のオープンキャンパスの冒頭部分はほぼ同じオリエンテーションを行う中で、必ず提示するものであり、本報告書でのオープンキャンパスの2回目以降は省略する。

・第一回のプロジェクター上映・配布資料

<p style="text-align: center;"><b>オープンキャンパス開講！</b> 3つのステージで、人生をより豊かに</p>	<p style="text-align: center;"><b>いきものってなんだろう？</b> —いのちから私たちを考える</p>												
<p>1</p>	<p>2</p>												
<p style="text-align: center;">文部科学省 「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」事業 一般財団法人福祉教育支援協会/シヤローム大学校 後援 和光市</p>	<p>コーディネーター 引地達也(ひきち・たつや)</p> 												
<p>3</p>	<p>4</p>												
<p>本日のスケジュール</p> <table border="0"> <tbody> <tr> <td>1030-1100</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td></td> <td>自己紹介とゲーム</td> </tr> <tr> <td>1100-1110</td> <td>クイズ「DNAとは」</td> </tr> <tr> <td>1110-1140</td> <td>実験「DNAをみる」</td> </tr> <tr> <td>1130-1140</td> <td>ふりかえり</td> </tr> <tr> <td>1140-1200</td> <td>ふりかえり、レポート作成・提出</td> </tr> </tbody> </table>	1030-1100	オリエンテーション		自己紹介とゲーム	1100-1110	クイズ「DNAとは」	1110-1140	実験「DNAをみる」	1130-1140	ふりかえり	1140-1200	ふりかえり、レポート作成・提出	<p>オリエンテーション</p> <p>オープンキャンパスの説明 10分 グループ内での自己紹介 10分 グループ名の決定 10分 クイズDEコミュニケーション 10分</p>
1030-1100	オリエンテーション												
	自己紹介とゲーム												
1100-1110	クイズ「DNAとは」												
1110-1140	実験「DNAをみる」												
1130-1140	ふりかえり												
1140-1200	ふりかえり、レポート作成・提出												
<p>5</p>	<p>6</p>												
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話の使用はご遠慮ください</li> <li>・飲み物の持ち込みはふたのついてあるもののみ</li> <li>・ごはんは引換券で交換します</li> <li>・カメラ撮影の許可(動画、写真)</li> <li>・次回案内</li> </ul>	<p>オープンキャンパス3つのステージ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 基礎教育ステージ</li> <li>2 関わりあいステージ</li> <li>3 実践教育ステージ</li> </ol>												
<p>7</p>	<p>8</p>												

基礎教育ステージ

関わりあひステージ

実践教育ステージ

9

基礎教育ステージ

関わりあひステージ

実践教育ステージ

- 1 いのちってなんだろう
- 2 物理学の実験と歌ってコミュニケーション (静岡県、長野県)

10

基礎教育ステージ

関わりあひステージ

実践教育ステージ

- 1 見沼田んぼで稲刈り
- 2 五輪を知らう！おもてなしのごみひろい
- 3 畑でできるもの、やきものを食べる

11

基礎教育ステージ

関わりあひステージ

実践教育ステージ

仕事で役立つコミュニケーション

12

出会いを喜ぼう  
 みんなで驚こう  
 みんなで笑おう  
 「新しい」ことを感じよう

13

出会いを喜ぼう

14

みんなが驚こう  
 オーバーアクション！

15

みんなが笑おう

16



「新しい」ことを  
感じよう

17

自己紹介

18

名前  
住んでいるところ  
最近①はまっていること  
②面白かったこと  
③食べたおいしいもの  
④楽しかったこと

19

グループ名を決めよう

20

実験に関するキーワード

ブロッコリー  
たまねぎ  
バナナ  
レバー  
ピーマン

21

講師

佐藤玄(さとう・はじめ)先生  
シャローム大学校教授(理学博士)  
元杏林大学医学部講師  
遺伝子研究が専門

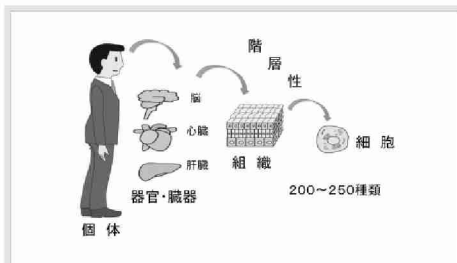
22

いきものってなんだろう？  
—いのちから私たちを考える

23

クイズ de  
コミュニケーション

24



25

DNA



26

Q1

生物は細胞からできています。ヒトは多細胞生物ですね。いくつの細胞からできているでしょうか？

- 1. 10兆個
- 2. 60兆個
- 3. 100兆個

27

Q2

1個の細胞の大きさは10~30マイクロメートル程度です。その中に含まれるDNAの長さは？

- 1. 1ミリメートル
- 2. 10センチメートル
- 3. 2メートル

28

Q3

では、ヒトの全細胞のDNAの長さを足すとどれくらいになりますか？

- 1. 日本列島の長さくらい
- 2. 地球を一周するくらい
- 3. 地球と太陽の間を400往復するくらい

29

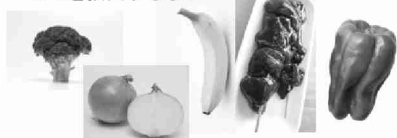
Q5

DNAにはその生物の設計図が書き込まれています。例えばヒトとバナナのDNAはどれくらいが等しいでしょうか？

- 1. 2%
- 2. 7%
- 3. 50%

30

DNAを抽出するもの



ブロッコリー 玉ねぎ バナナ 豚のレバー ピーマン

31

事前準備

- 無水アルコールは冷凍庫で冷やしておく(凍らない)
- 乳鉢、乳棒は冷蔵庫で冷やしておく
- 材料は細かく刻んで冷凍庫で凍らせておく

32

### 実験操作1

DNA抽出液(DNAを溶かし出す溶液)を作る

小さじ2杯の食塩、小さじ2杯の洗剤を計量カップに入れ、水を加えて全体を200 mLにして、よく混ぜる。半透明の溶液になっても構わないが、あまり泡立てないようにする。  
→この液がDNAの抽出液になる

33



34

### 実験操作2

材料を水分がやすいように切る

→  
玉ねぎ みじん切り  
ピーマン みじん切り  
ブロッコリー 芽の部分を切る  
レバー 細かく切る  
バナナ 細かく切る

35

### 実験操作3

材料をすりつぶす

最初は、すりこぎを押しつけるようにしてつぶし、その後すべてを、手早くすりつぶす。

注意:時間がかかるとDNAが分解してしまうので手早く行う。

36



37

### 実験上の注意・補足

- ・DNAは長鎖状であるため、物理的刺激によって切断しやすい。塩化ナトリウムを加えた後は静かに攪拌すること。
- ・またガラス棒で巻き取る時にも、何回もかき回していると切断され、巻き取ることが出来なくなるので注意が必要である。
- ・DNAは1~2Mの塩化ナトリウム溶液に溶解しやすいので、濁りに対し、この濃度になるように塩化ナトリウムを加える。
- ・細胞中にはDNA分解酵素が含まれているため、エタノールを加えるまでの操作は手早く行うこと。
- ・台所用洗剤には界面活性剤が含まれている。これは細胞膜を破壊する働きとタンパク質を破壊する働きがある。
- ・DNAは低温の方が、エタノールに対する溶解度が小さいため、冷凍庫で冷やしておく。
- ・エタノールを注ぐと、DNAは比重が小さいため、エタノール層に浮いてくる。タンパク質は比重が大きいので、浮いてこない。

38

### 実験操作4

DNAを溶かし出す

DNA抽出液を、すりつぶした材料の全部が浸る程度に加える。すりこぎで軽く混ぜた後、すり鉢を両手で持って回すようにして、全体にまんべんなく液が混ざるようにする。すり鉢の中の物は、そのまま5分間静かに置いておく。  
注意:静かに混ぜないと、DNA鎖が切断されて取り出せなくなる。

39

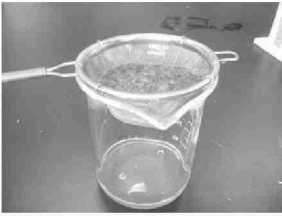

### 実験操作5

ろ過する

→  
茶こしを用いて、すり鉢の中の物を静かに移して、ろ過する。

40



 <p>41</p>	<p><b>実験操作6</b></p> <p>DNAを取り出す          ガラス棒を使い、エタノールをコップの壁に伝わ          せて静かに注ぎ、透明なエタノール層を抽出液          の上に乗せるようにする。          透明なエタノール層の高さが抽出液の高さの3～          4倍程度になるようにする。</p> <p>数分するとー</p> <p>42</p>
 <p>43</p>	<p>下の抽出液の層から上のエタノール層に、          白い糸状になって浮き上がってくる物質がある</p> <p><b>これが、DNA</b></p> <p>ガラス棒を用いてDNAを巻き取ってみよう！</p> <p>44</p>
<p>ちがいをみてみよう！</p> <p>45</p>	<p>アンケート記入          感想を書いてください          記入したら提出してください</p> <p>終了 12時</p> <p>46</p>

### 2-3 開催レポート

(本レポートは開催後にシャローム大学校等のホームページに掲載されたレポートをベースに以下掲載する＝以下同じ)

2019年8月28日(水)、和光市中央公民館においてシャローム大学校「オープンキャンパス2019」第1回目が開催されました。

#### 【開催概要】

日時：8月28日(水) 午前10時30分～12時

テーマ：「いきものってなんだろう？—いのちから私たちを考える」

いきものなりたちについて、細胞や医学などからわかりやすく伝えます。

コーディネーター：引地達也(シャローム大学校 学長)

講師：佐藤玄・シャローム大学校教授(元杏林大医学部講師)

主催：一般財団法人福祉教育支援協会/シャローム大学校

#### 10:30~10:40<オリエンテーション>

今年も始まった「シャローム大学校オープンキャンパス」。オリエンテーションでは、コーディネーターの引地達也からオープンキャンパスの開催目的や「新しい出会いを喜ぼう！」という趣旨が説明され、グループごとに参加者同士の自己紹介が行われました。また、文部科学省や教育委員会等から来られた見学者の方々の紹介も行われました。



#### 10:40~11:00<クイズ de コミュニケーション>

引き続き、恒例の「チーム対抗クイズ」。グループが1つのチームになってクイズの答えを考え、正答率を競います。今回は、講師の佐藤玄先生からDNAに関する講義があった後、「DNAにまつわる知識クイズ」が出題されました。



### 11：00～11：50<科学実験「いろいろなもののDNAを抽出してみよう」>

今回のメインプログラムは本格的な科学実験です。その内容は、私たち人間をはじめとした全ての生物の「設計図」ともいえるDNAを目に見える形で抽出してみるというもの。選ばれた材料はバナナやレバー、玉ねぎなど。乳鉢で材料をすりつぶし、エタノール加え、これを濾過して…。参加者の皆さまはスムーズに実験を進めていきます。その姿は、まるで科学者のようでした。実験の結果、皆さま見事にDNAの抽出で成功！とれたてほやほや？のDNAとの記念撮影で大盛り上がりでした。



### 11：50～12：00<振り返り>

最後は、本日の振り返りと感想をアンケートに記入して本日のオープンキャンパスは終了。次回も、皆さまのご参加をお待ちしております。

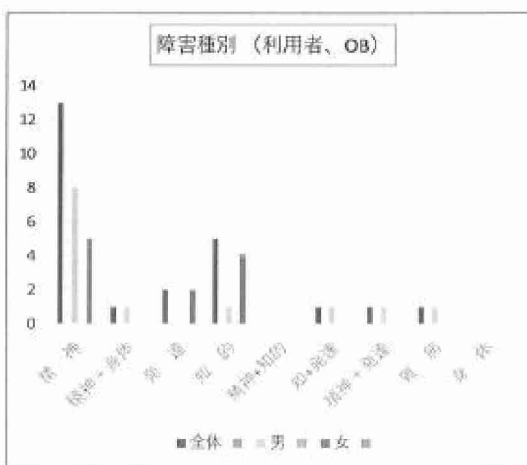


2-4 参加者集計

第1回_2019年 8月 28日					
	全体	男	女	欠席	前欠
予 定	30	18	12	-	-
当 日	48	29	19	4	-
シャローム利用者	13	7	6	2	-
シャロームOB シャローム大専学校学生	5	4	1	0	-
チャレンジド 板橋区役所前	6	2	4	2	-
付 添	4	3	1	0	-
一般・視察等	11	7	4	0	-
ボランティア	1	1	0	0	-
スタッフ	8	5	3	0	-

\* 障害種別 (利用者、OB)

障害種別	全体	男	女
精 神	13	8	5
精神+身体	1	1	0
発 達	2	0	2
知 的	5	1	4
精神+知的	0	0	0
知+発達	1	1	0
精神+発達	1	1	0
難 病	1	1	0
身 体	0	0	0
計	24	13	11



\* 年齢別（スタッフ以外）

年齢別	全体	男	女
15-19	4	3	1
20-24	4	3	1
25-29	3	2	1
30-34	2	1	1
35-39	6	2	4
40-44	4	2	2
45-49	4	2	2
50-54	2	1	1
55-59	1	1	0
60代	0	0	0
70代	0	0	0
80代	1	1	0
不明	9	6	3
計	40	24	16

\* 地域別（スタッフ以外）

	全体	男	女
和光市	7	4	3
朝霞市	2	1	1
富士見市	1	1	0
志木市	0	0	0
所沢市	3	1	2
入間市	1	1	0
狭山市	1	1	0
新座市	1	1	0
坂戸市	1	1	0
飯能市	0	0	0
板橋区	10	4	6
練馬区	1	1	0
杉並区	2	2	0
中野区	1	1	0
千葉県	7	5	2
不明	2	0	2
計	40	24	16

## 2-5 受講者の感想

	質問1		質問2		質問3	質問4	質問5	年齢	性別
1	まあ楽しかった	ワクワクした。	まあ勉強になった	DNA がとれてよかった					
2	まあ楽しかった	生まれて初めての講義だったので、「とまどい」が「たくさん」あったので。	まあ勉強になった	「聞き取れない」ところが沢山あって、「とまどい」しました。	レバーを「すりばち」で「すりつぶす」のが、一番きつかった。	まあ勉強したと思った		45	女性
3	とても楽しかった	DNA を初めて目にしたので、ビックリしました面白かったです	とても勉強になった	知識だけでなく、実体験を通して、学ぶことが大切だと思いました。	クイズで、ヒトのDNAを広げると、地球と太陽を400往復するということが、一番心に残りました。	とても勉強したと思った	クローンとかそういうゲノム編集も学びたいと思いました	21	男性
4	とても楽しかった	「DNA」は、遺伝子検査とかで耳にはしていたけど、それが見れると思わなかったのが楽しかったです。最初にグループで自己紹介をしたのもとても良かったです。	とても勉強になった	こんな身近なものでDNAが見れるとは！！しかも、ヒトの中にあるDNAが、地球と太陽を400往復する長さになるのにもおどろきました。	実験が楽しかったです。	とても勉強したと思った	実験や実践は楽しそうですね。	37	女性
5	とても楽しかった	高校以来の実験でしたので、とても新鮮でした。	とても勉強になった	普段DNAなんかとって、見ることはないのですが、今日の実験を通して、DNAが身近な存在でした。	DNAの実験(理)実験がとても面白かったです。	とても勉強したと思った		38	男性
6	とても楽しかった	みんなと、話げ、できた。	とても勉強になった	楽しかった。	DNA	とても勉強したと思った	もっと、ほかに、やりたいことを、聞く	39	女性
7	とても楽しかった	昨年とは違う人たちとグループで、実験をやっ、グループ名も一緒に考えてとても楽しかったです。DHA がどんな物なのか！知れて良かったです。最後、絡まらなくて、取れなかったのは、残念でした。	とても勉強になった	DHA の作り方を教えてもらった。	ビーマンを、すりつぶして洗剤を入れる所と、DHA が出来ていく所が心に残りました。	とても勉強したと思った	学習プログラムは思い付かないですが、参加はしたい。けど、チャレンジ利用は、来年3月までで、無理だと思う。	44	女性

8	とても楽しかった	ひさしぶりにこうしの先生の話がきけてよかったです。	とても勉強になった	たまねぎの実験がすごく楽しかったです。	たまねぎの実験です。	とても勉強したいと思った	実験をもっとやりたいと思っています。	22	男性
9	とても楽しかった	・DNAを実際に抽出する過程も体験し、肉眼で見ることができた。 ・実験が楽しかった。	とても勉強になった	・DNA がとても長いことが分かった。 ・バナナとの違いが50%ということにおどろいた	DNA を取り出すことに成功したこと。	とても勉強したいと思った	宇宙について	48	男性
10	とても楽しかった	実験で良い結果が出ました	とても勉強になった	学生の頃、出来なかった事が出来たので	自分のチームが一番に DNA を抽出できた事です	とても勉強したいと思った		22	女性
11	とても楽しかった	引地先生のコーディネートが素晴らしいです、興味、関心が高まるように、何より楽しく笑顔いっぱいに取り組める進め方が大変勉強になりました。スタッフがともに楽しむことの大切さを再確認しました	とても勉強になった	難しい内容だと思いましたが、実験体験の良さがあって素晴らしい学びだと感じました、大学校ならではの専門性の高い講義でした 今後の参考にさせていただきます ありがとうございます	DNA の抽出できた時の感動！	とても勉強したいと思った		58	男性
12	まあ楽しかった	自己しようかいは苦手ででした。	まあ勉強になった	食べ物の DNA が見れて良かったです	たまねぎやレバーなどの DNA が見れてびっくりになりました。	あまり思わなかった	面白い勉強をしたいです	18	男性
13	とても楽しかった	・初対面の方々と楽しくコミュニケーションが出来ました。 ・最初は少し緊張しましたが、空いた時間にお話をしたり実験をやってみてとてもいい交流ができました。	とても勉強になった	・DNA の実験をするのは初めてなので驚きがたくさんありました。 ・たまねぎの DNA はこういう感じなのかということがよく分かりました。 ・DNA というのが詳しく分かっていなくて何だろうと思っていましたが、今回の実験で DNA というのがよく分かった気がします。	・グループの皆さんとお話したことが残っています。	とても勉強したいと思った	・コミュニケーション	19	女性
14	とても楽しかった	レバーの DNA をとって、時間がかかったがとることが出来て良かった。実験形式がとても楽しめた。	とても勉強になった	DNA 抽出を初めてやったが、楽しかったし、やり方が分かった。	材料を使つての DNA 抽出	とても勉強したいと思った	参加してた人全員で楽しめるプログラム	28	男性

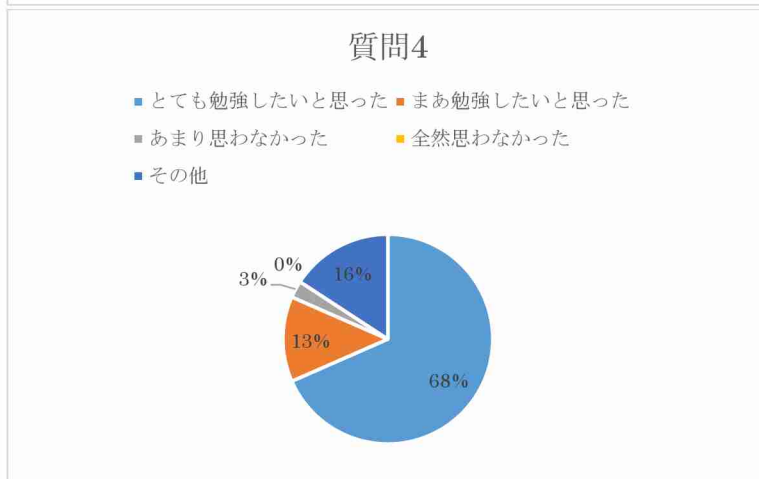
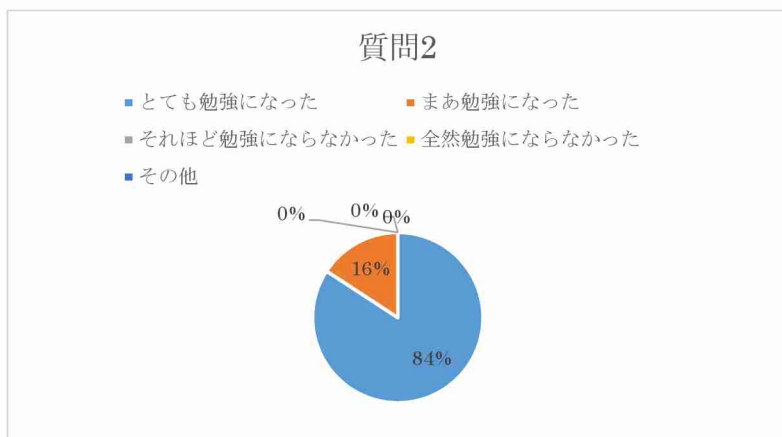
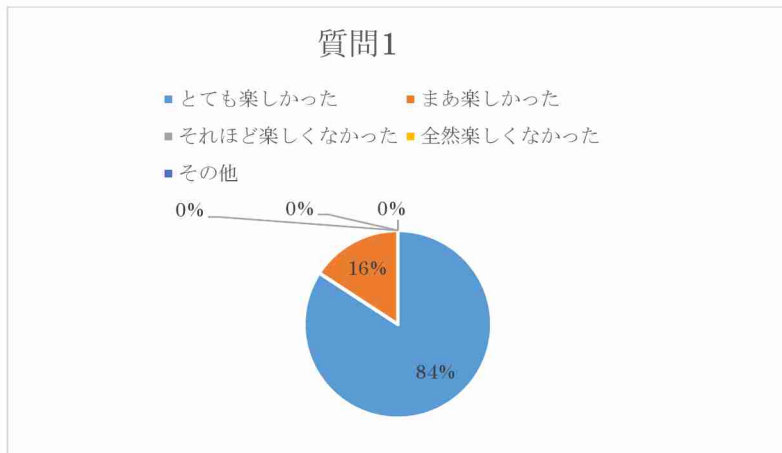
15	まあ楽しかった	実験は好きなので	まあ勉強になった	じゃっかん話のないようがふくざつでした。	別チームのレバナーがグロかったです。			24	男性
16	とても楽しかった		とても勉強になった	て楽しかったです。					
17	まあ楽しかった	クイズに全問正解できました。(チームではなく個人で)	とても勉強になった	DNA の取り方を学ぶ事が出来ました。ほかの人と協力して取り組んだことは勉強になりました。	グループワークは楽しかったですが、逆に難しさも感じました。DNA 抽出液を入れる分量やエタノールの分量が分からず間違えてしまったので、もっと詳しい説明が欲しかったです。	とても勉強したいと思った	クイズ形式等、みんなで楽しめるプログラムがあったら、ぜひ参加したいです。	30	女性
18	とても楽しかった	DNA の仕組みを楽しく学べたから	とても勉強になった	DNA の最終方法を初めて学ぶことができたから	DNA の個数について	まあ勉強したいと思った	初心者でも楽しく勉強できるプログラム	41	男性
19	とても楽しかった	はじめて DNA を目でみたのでおもしろかった	とても勉強になった	生物にきょうみがあったのでいろいろべんきょうになった	DNA がもくしてきてびっくりしました	まあ勉強したいと思った	今日のほかのことのじっけんをしてみたい	45	女性
20	とても楽しかった	DNA の抽出実験が上手く言って良かったです。	まあ勉強になった	より詳しく専門的な説明を分かりやすく加えてもらえたら。DNA についてもっと知りたくなりました。	DNA の抽出プログラム	まあ勉強したいと思った	人文知に関すること。哲学の近現代の歩みや、最近の動向(思弁的実在論など)をよりわかりやすくしたものがききたい。	54	男性
21	とても楽しかった	材料をすりつぶすのが楽しかったです	まあ勉強になった	1 つの細胞が 2 メートルにもおよぶ DNA を持っているというのを聞いておどろきました	人体とバナナでさえ 50%もの DNA の一致が存在するということ	とても勉強したいと思った		19	男性
22	とても楽しかった	とてもうまくいき、DNA を見る事が出来感動	とても勉強になった	DNA のことだけでなく、みなで、協力できたことも良かったです。	実験をみなで正効させたこと。	とても勉強したいと思った		43	男性



23	とても楽しかった		とても勉強になった		クイズ	とても勉強したと思った		25	
24	とても楽しかった	知識を聞いて知るだけではなく実践を通して学べた。	とても勉強になった	クイズ形式で楽しみながら学べた	グループのメンバーで役割を決めて協力したこと。	とても勉強したと思った	言語やコミュニケーションを学ぶ場 講義だけでなく実践も兼ねて	33	男性
25	とても楽しかった		とても勉強になった		DNA がこんな風にとれる事におどろきました	とても勉強したと思った		50	女性
26	とても楽しかった	座って話を聞いているだけの授業ではなく実験をすることで、学んでいる人も楽しく参加できた。また沢山の新しい知識も増えて有意義な時間だった。	とても勉強になった	日常生活では考えない、触れない分野のことを楽しく学べたから。	バナナと人間のDNA は50%同じ	とても勉強したと思った	また参加者が実際に何かを行うようなものがやりたい。	19	男性
27	とても楽しかった	皆が参加出来て、感動もある良いプログラムだと思います。	とても勉強になった	DNA の長さが地球と太陽 400 往復とは、おどろきでした。	バナナの DNA が、とてもきれいにとれた事	とても勉強したと思った	農業体験、畑を使用した収穫など	30	男性
28	まあ楽しかった	DNA の抽出方法が学べて、楽しかった。	とても勉強になった	身近な材料でできることを知れた。他のチームの様子も見れて、比べることができた。	人間の DNA をつなげるととても長いこと。バナナの DNA と50%同じこと	とても勉強したと思った	学校を卒業すると、新しいことを学ぶ機会がなかなかないので、どんな内容でも楽しめる。		女性
29	とても楽しかった	はじめての体験ができたから。	とても勉強になった	知らないことを学べたから	自然と実けんに全員が引き込まれていく様子。	とても勉強したと思った	様々な人がコミュニケーションをとれるプログラム。	40	男性
30	とても楽しかった	初めてお会いした方と一緒に実験を通して仲良くなれた。よかったです。	とても勉強になった	初めてお会いした方と色々なお話ができてよかったです。	私とバナナの違いはあまりなかった点	まあ勉強したと思った		36	女性
31	とても楽しかった	普段は知ることの出来ないことをすることが出来た	とても勉強になった	今まで知らないことを知れた	DNA の抽出	とても勉強したと思った	街のつくりや歴史について知りたかったと思った。	37	男性

32	とても楽しかった		とても勉強になった						
33	とても楽しかった	・佐藤先生のキャラクターがおもしろい！ ・実験の内容がとても高度で難しいと思うのですが、わかりやすく説明していただき、サポーターの方の支援も的確だったので。	とても勉強になった	・DNA が肉眼が見れるとは！？おどろきました。 ・簡単な材料でできるので、家庭でもできますね	・受講生の皆さんの笑顔やリアクションが良かった！ ・また、リーダーの方の声掛けや支援の仕方、キョリ感がとても勉強になりました。	とても勉強したいと思った		41	女性
34	とても楽しかった	・身近な材料を使って DNA が抽出できるオドロキ、実験過程の美しさ ・全員がモノにさわれた・やりにくくなりがちな自己紹介やチーム名決めも、手かりを決めてもらっていたのでスムーズに ・最初に予定、見直し〇	とても勉強になった	・クイズの知識 IN と実験で手を動かすこと、両方が出来た ・生命・DNA のスケール感、他の生物と人間との共通性が感動的	ジョイが一番抽出に適しているということの研究してた人がいること	とても勉強したいと思った			
35	とても楽しかった		とても勉強になった		DNA が実験によって出現！！した事です。	とても勉強したいと思った			女性
36	とても楽しかった	参加者皆さんが楽しそうに実験に取り組んでいた	とても勉強になった	DNA についてわかりやすく知ることが出来た	参加者の一体感	とても勉強したいと思った		45	男性
37	とても楽しかった	「DNA を取り出す」という実験を見たのは初めてで、とても感動しました。体の中にとっても長い DNA が存在していることにもおどろきました。	とても勉強になった	専門的な方がいないとこういう経験はできなく、また皆さんのスタッフの協力もあり、楽しい学びの場を提供することができていました。					
38	とても楽しかった	DNA の詳しい内容が伴った。	とても勉強になった	家でもできそうです。					

・集計表



1回目 参加者38人							
質問1		質問2		質問4		年齢・性別	
とても楽しかった	32	とても勉強になった	32	とても勉強したいと思った	26	年齢回答者数	30
まあ楽しかった	6	まあ勉強になった	6	まあ勉強したいと思った	5	平均年齢	35
それほど楽しくなかった	0	それほど勉強にならなかつた	0	あまり思わなかつた	1	男性	18
全然楽しくなかつた	0	全然勉強にならなかつた	0	全然思わなかつた	0	女性	13
その他	0	その他	0	その他	6	未回答	7

## 2-6 まとめ

本年度の第一回目は「化学実験」として DNA 抽出という一見難しいテーマ設定をしたものの、精神障がい・知的障がいのある参加者は共に「何となくしか知らない」ことを知る期待感があったようで、当初から楽しい雰囲気で講義が始まった。

会場には文部科学省や千葉県教育委員会のコンソーシアムメンバー、和光市関係者らの視察やオブザーバーも多く賑やかな様相となり、講師を担当した佐藤玄先生のたんとした講義ぶりも印象的だった。佐藤先生は元杏林大学医学部講師でショウジョウバエの遺伝子解析をしていた専門家で DNA は専門領域でもあり、素朴な DNA の質問にも分かりやすく解説することが、学びの楽しさにもつながる可能性を感じさせた。

また受講生の中には筋ジストロフィーで体が動かせず、ストレッチャー型車いすに乗った重度障がい者の男性も参加しており、実験の際にはほかの参加者がその男性の目の近くで実験を見せてあげたり、自然とその男性を中心にした形で共同作業を行おうとするグループ行動となり、「学びあい」という点でも大きな収穫があった。

実験という究極のアクティブラーニングのコンテンツとしての有効さをあらためて実感し、難しい問題でも実験プロセスを示し、その解説を加えていけば、難解なテーマ設定でも対応できることが示された。

### 3. 第二回オープンキャンパス

#### 3-1 準備及び広報

長野県佐久市での開催に向けてチラシとポスターを作成し、チラシは関係機関への郵送や市役所、公民館、教育委員会、市民活動センターで置いてもらうと同時に、市役所の障害福祉課窓口や会場などにも貼付していただいた。このチラシをきっかけに信濃毎日新聞が事前取材し、長野県全域対象も地域面でお知らせのような形で記事を掲載していただいた。

2019年度文部科学省委託研究事業

市民と障がい者の学びの場 **参加費 無料**

シャローム大学校

**オープンキャンパス**

長野県佐久市にて開催!

ボランティア、サブティーチャー、一般参加の市民の方も大歓迎です

**9月25日(水) 午前10時~14時30分**  
(佐久市市民創錬センター(佐久県佐久市佐久105番地))

スタンバイミー

市民と障がい者が学びあう  
新しいコミュニティ

**中午前プログラム：学ぶとはなにかー哲学と自然科学**  
学ぶことについて哲学と自然科学から考えます。自然科学では受講者が科学実験を行い、体感してコミュニケーションを学びます。  
担当講師：丸尾秀一郎(浦和大学 教授)

**中午後プログラム：声を出してメディアコミュニケーション**  
ピアノコースで声を出すこととコミュニケーションを考えます。みんなのコースや音遊びをしながら、コミュニケーションの大切さを学びます。  
担当講師：ピアノコースグループワーム(シャローム大学校 専攻教授) 他

ファシリテーター：引地達也(シャローム大学校 学長)

参加対象

学びたいと考える障がい者、付き添いの方、障がい者と学びたいと考える方々  
(対象年齢は18歳以上)

**参加費無料**

お申込方法

お申込は、お名前・住所・電話番号・所属先(学校や福祉施設等)を明記の上、メール・FAXでお申し込みします。

お申込み・お問合せ先：シャローム大学校(オープンキャンパス部)  
〒321-0114 埼玉県松本市東町 9-40-2F  
電話：048-450-7055 / FAX：048-450-7055 / E-MAIL：shilam-college@vnes.or.jp

<FAXでのお申込みの方は、下記をご記入の上送信ください>

**FAX 送信先：048-450-7055**

**FAX 申込用紙**

●参加者氏名1： \_\_\_\_\_  
●参加者氏名2： \_\_\_\_\_  
●参加者氏名3： \_\_\_\_\_  
●参加者氏名4： \_\_\_\_\_  
●参加者氏名5： \_\_\_\_\_

●ご住所： \_\_\_\_\_  
●電話番号： \_\_\_\_\_  
●所属先： \_\_\_\_\_

本事業は2019年度文部科学省  
「学校卒業後における障がい者の学びを支援する実践研究事業」の採択事業です。

主催：一般財団法人福祉教育支援協会/シャローム大学校  
後援：佐久市・佐久市教育委員会

#### 3-2 カリキュラム内容

オープンキャンパス午前10時から午後14時30分まで、長野県佐久市佐久市民創錬センターにて行った。

以下がタイムフローである。

時間	項目	内容
900	スタッフ集合・準備開始	4人ー1グループ(受講生とサブティーチャー) 看板・案内・パソコンセッティング・WB・音声・マイク
930	受付開始	
1000	開会あいさつ 引地達也	以下、説明資料、パワーポイント
	出席者紹介 同	
	自己紹介タイム 同	

1030	チームの名前決め 同	
1040	クイズでコミュニケーション	クイズ3題、各チームごとに解答
1050	休憩	
1100	講義① 九里秀一郎・浦和 大学教授  ＜前半＞講義：学ぶとはな にかー哲学と自然科学 ＜後半＞科学実験：電気ク ラゲを飛ばそう	まなぶことについて哲学と自然科学から考え、 さらに自然科学では受講者が科学実験を行い、 体感してコミュニケーションを学ぶ  科学実験では「電気クラゲ」に挑戦
1200	昼休憩	会場に地域の福祉施設の店が出店され、菓子等 を販売した
1300	講義② サーム・ピアノコ ーラスグループ／河辺朋 久・シャローム和光施設長  ＜前半＞講義：音楽の力を 知ろう ＜後半＞ワークショップ： みんなで音遊び	コミュニケーションにおいて音や音楽が与え る影響について、実際に音楽や映像を見ながら の講義やクイズで学ぶ  ワークショップでは両手、両足に鈴をつけてリ ズムに合わせて参加者同士がハイタッチ
1410	まとめ・感想文記入	
1430	終了・修了証授与	

・第二回目のプロジェクト上映・配布資料

<講義①>

基礎教育ステージ

学びとは何か ～ 哲学と自然科学 ～

学問とは学ぶだけでなく問うことです。

◆ 学問は古代ギリシャから

- ① 哲学 (Philosophia フィロソフィア：知を愛する) が古代ギリシャで発達しました。
- ② 哲学者プラトン (紀元前 427-347 年) は「アカデメイア」という学校を創設、そこでは天文学、生物学、数学、政治学、哲学等が教えられました。
- ③ そこでは対話が重んじられ、教師と生徒の間答によって教育が行われ、すぐれた哲学者が育てられました。



古代ギリシャの学校  
アカデメイア  
紀元前 387 年

◆ 哲学が学問の始まり

- ① プラトンの弟子のアリストテレスは「学問の祖」と呼ばれます。
- ② 自然学 (物理学) や心理学など、現在の学問のほとんどが彼の哲学の中に含まれています。
- ③ 哲学を土台として 1 世紀にキリスト教が誕生し、4 世紀以降ヨーロッパ全体に広がりました。
- ④ 自然の哲学はキリスト教の影響を受けつつ、ガリレオ、コペルニクスを経て、17 世紀のニュートン等による近代自然科学へと発展しました。



アリストテレス  
紀元前 384-322 年

◆ 古代ギリシャの四大元素

古代ギリシャの自然哲学者は、物質を分割した時の最小単位として火、空気、水、土からなる四大元素を考えました。しかし、元素は小さいので、20 世紀にアインシュタインが分子の実在を証明するまで存在が確認されませんでした。



◆ 古代に発見された電気と磁気

電気や磁気はギリシャ最古の自然哲学者タレス (紀元前 624-546 年) の記録にあります。人類最初に発見された自然界の力です。物体と物体をこすると摩擦電気が起こります。電気にはプラスとマイナスがあり、同種の電気は反発、異種の電気は引き合います。同様に、磁石にも N 極と S 極があり、同種は反発、異種は引き合います。電気クラグの実験は電気の流れを楽しく学ぶことができます。



電気クラグの実験

1

現代の自然科学

◆ 宇宙の始まり

20 世紀の科学者は、今からおよそ 140 億年前に、宇宙が大爆発で始まったことを発見しました。それが「ビッグバン」と呼ばれます。宇宙は今も膨張を続けています。ビッグバンと同時に、物質の源である素粒子が作られました。素粒子が集まって原子、分子が合成され、さらに、それらが集まって星ができ、太陽や地球が生まれました。そして、長い年月を経て、地球に人間が誕生したのです。

質問：宇宙に終わりはあるのですか？

◆ 自然界の 4 つの力

ビッグバンの時に 4 つの力が生まれました。その力によって素粒子から原子や分子が作られ、さまざまな物質が宇宙に誕生しました。

・重力

私たちに最も身近な力ですが 17 世紀まで発見されませんでした。力は無限遠まで働き、星、太陽、地球など、天体を動かす力です。

・電磁気力

最も古くから知られ電気と磁気の 2 種類あります。原子や分子は電磁気力で結合しています。化学反応やエレクトロニクスに応用され、現代産業を支えている力です。

・弱い力

原子核 (原子の中心にある核) の中の力で、核を分裂させる弱い力が知られています。

・強い力

原子核の中にある、ものすごく強い力です。原子力として利用されています。

質問：なぜ自然界の力は 4 つなのですか？

電気クラグの原理と飛ばし方

◆ 摩擦電気を利用します。

物質中には、マイナスの電気を持った「電子」とプラスの電気を持った「原子核」があります。電子はとても小さくて、物体と物体をこすだけで移動します。電子が移動して減った物質はプラスに、増えた物質はマイナスになります。同じ種類の電気を帯びた物質同士は反発するので、その力で電気クラグを飛ばします。

◆ 「ビニールひも」と「パイプ」を紙でこすります。

電気クラグはビニールひもで作ります。パイプは水道管につかう塩化ビニールです。キッチンペーパーで両方をこすると同じマイナス電気を帯びます。この二つを上手に空中で接近させると、クラグがパイプから反発力を受けて空中に浮きます。パイプがアクリル定規の場合はプラス電気を帯びるので電気クラグとくっついてしまいます。



上手に飛ばすコツは、クラグと棒に静電気をたくさん起こし、静電気が無くなる前にすばやく飛ばすことです。

さあ、電気クラグにチャレンジしよう！

2

< 講義② >

**音楽コミュニケーション**  
音楽を使ってコミュニケーションを学び  
みんなで一つになろう♪



1

**コミュニケーションとは??**

情報の伝達と心や気持ちの通い合いを通して、お互いに理解し合うためにおこなわれるもの

2

**コミュニケーションの種類**

- ①言語コミュニケーション  
言語情報(ことば)
- ②非言語コミュニケーション  
視覚情報と聴覚情報(目や耳)

3

**寒くないですか??**



寒くないです

4

**寒くないですか??**



寒くないです

5

**クイズ**

人は①と②の情報をどれくらいの割合で受け取るでしょう?

- ①言語コミュニケーション 〇%
- ②非言語コミュニケーション 〇%

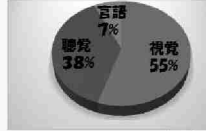
6

**正解**

- ①言語コミュニケーション 7%
- ②非言語コミュニケーション 93%

7

**メラビアンの法則**



言語 7%  
聴覚 38%  
視覚 55%

帯状や態顔について示したメッセージが発せられたとき、人は話の内容などの言語情報7%、口調や早さなど聴覚情報38%、見た目などの視覚情報55%の割合で影響を受ける。

8



聴きくらべよう  
2つのありがとう♪

9

言語情報 (歌詞) < 聴覚情報 (ハーモニー)

10

観くらべよう  
2つの運動会♪

11

動画1

12

動画2

13

視覚情報 (動画) < 聴覚情報 (ハーモニー)

14

演奏しよう♪  
音楽を奏でみんなが  
ひとつになろう♪

15

We Will Rock You ♪  
みんなでリズムを生み出そう!

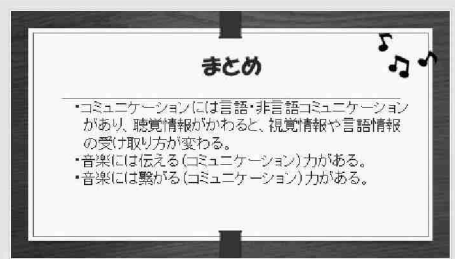
	1	2	3	4
足	○	○	休	休
手	休	休	○	休

→

16



17



18

### 3-3 開催レポート

2019年9月25日(水)、長野県佐久市佐久市民創錬センターにおいてシャローム大学校「オープンキャンパス2019」第2回目が開催されました。

#### 【開催概要】

日時：9月25日(水) 午前10時00分～14時30分

テーマ：

<午前> 学ぶとはなにかー哲学と自然科学

まなぶことについて哲学と自然科学から考えます。自然科学では受講者が科学実験を行い、体感してコミュニケーションを学びます。

<午後> 声を出してメディアコミュニケーション

ピアノとコーラスで、声を出すこととコミュニケーションを考えます。みんなでコーラスや音遊びをしながら、コミュニケーションの大切さを学びます。

講師：

<午前> 九里秀一郎・浦和大学教授

<午後> ピアノコーラスグループ、サム・シャローム大学校客員教授／河辺朋久・シャローム和光施設長 / ファシリテーター：引地達也・シャローム大学校学長

主催：一般財団法人福祉教育支援協会／シャローム大学校

## 【開催レポート】

### 浅間山を望む、自然に恵まれた佐久市で開催

今回のオープンキャンパスは、別荘地として有名な軽井沢の隣の市、佐久市で実施されました。なお、佐久市は全国屈指の「晴天率」を誇る土地とのことで、本日も素晴らしい晴天に恵まれました。



### 10:00~10:50<オリエンテーション・クイズ de コミュニケーション>

毎回恒例のオリエンテーションでは、コーディネーターの引地達也からオープンキャンパスの趣旨が説明され、グループごとに参加者同士の自己紹介が行われました。また、グループの絆を強めるべく「チーム名決め」が行われました。その後、早速のチームプレイ。チーム対抗クイズが出題されました。



### 11：00～11：20<午前プログラム① 講義：学ぶとは何かー哲学と自然科学ー>

浦和大学の九里秀一郎教授から「学問のはじまり」「古代ギリシャの四大元素」に関する講義がありました。難しそうなテーマですが、非常に分かりやすく説明をしていただきました。



### 11：20～12：00<午前プログラム② 科学実験：電気クラゲを飛ばそう>

講義では「自然界の力として紀元前に発見された電気・磁気」というお話がありましたが、この存在を自分自身で確かめることのできる「電気クラゲの実験」がありました。これは、静電気を発生させてビニールひもでつくった「クラゲ」をふわふわと宙に浮かせるというもの。うまくクラゲを浮かせなければ落ちてしまうため、参加者の皆さまはワイワイキャーキャーと盛り上がっていました。「どれだけクラゲを浮かせていられるか」をチームで競うゲームもありました。



## 12:00～13:00<お昼休み>

お昼休みには、オープンキャンパス会場に地域の福祉施設のお店が出店され、お菓子などを販売してくれました。

### ●就労継続支援B型事業所「朝科ふれあいホーム」



### ●就労継続支援B型事業所「佐久の泉共同作業センター」



### ●就労継続支援B型事業所「第二佐久コスモスワークス」



## 13:00～13:40<午後プログラム① 講義：音楽の力を知ろう>

午後からは講師をピアノコーラスグループのサーム（シャローム大学校客員教授）と河辺朋久さん（シャローム和光施設長）にバトンタッチ。まずは、コミュニケーションにお

いて音や音楽が与える影響について、実際に音楽や映像を見ながらの講義やクイズがありました。サームの生演奏・生歌を聞くこともできました。



### 13:40~14:10<午後プログラム② ワークショップ：みんなで音遊び>

次は、参加者みんなで音を通じたコミュニケーション。両手、両足に鈴をつけてリズムに合わせて参加者同士がハイタッチ！タッチの度に「リンリン」と鈴の音が鳴り、手拍子、足拍子とともに、みんなで一緒に一つの音楽作品をつくってコミュニケーションをとることができました。



### 14:10~14:30<振り返り・アンケート記入>

最後は、みんなで起立して「お疲れ様でした」。次回の佐久でのオープンキャンパス開催を、ぜひ楽しみに。



### 3-4 参加者集計

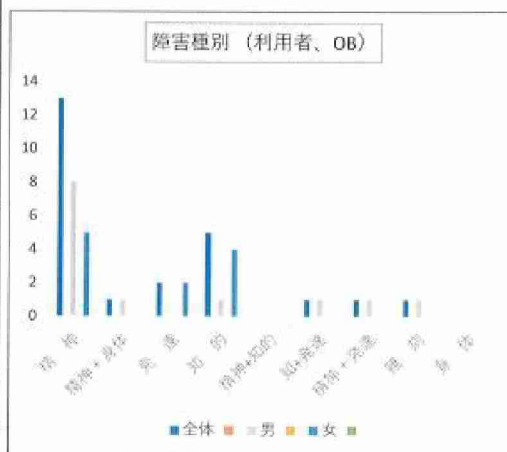
第2回_2019年 9月 25日 in佐久					
	全体	男	女	欠席	前欠
予 定	15	9	6	-	-
当 日	29	15	14	0	-
1日	8	4	4	0	-
AM	3	1	2	0	-
PM	10	5	5	0	-
佐久市参加者	8	5	3	0	-
シャロームOB シャローム大学校学生	2	2	0	0	-
付 添	1	0	2	0	-
一般・視察等	9	2	7	0	-
ボランティア	1	1	0	0	-
スタッフ	7	5	2	0	-

・佐久泉の共同作業所  
・岩村田作業所 ほか

28 15 14

\* 障害種別 (利用者、OB)

障害種別	全体	男	女
精 神	4	3	1
精神+身体	0	0	0
発 達	0	0	0
知 的	4	3	1
精神+知的	1	0	0
発達+知的	0	0	0
精神+発達	1	1	0
難 病	0	0	0
身 体	0	0	0
計	10	7	2



\* 年齢別（スタッフ以外）

年齢別	全体	男	女
15-19	2	2	0
20-24	0	0	0
25-29	1	1	0
30-34	4	2	2
35-39	1	1	0
40-44	1	1	0
45-49	3	0	3
50-54	0	0	0
55-59	4	1	3
60代	4	0	2
70代	1	0	1
80代	0	0	0
不明	1	0	1
計	22	8	12

\* 地域別（スタッフ以外）

	全体	男	女
佐久市取出町	1	0	1
佐久市岩村田	12	5	7
佐久市小田切	1	0	1
佐久市臼田	1	1	0
佐久市中込	2	1	1
東京都府中市	1	0	1
東京都板橋区	1	1	0
埼玉県狭山市	1	1	0
埼玉県さいたま市	1	0	1
埼玉県和光市	1	1	0
計	22	10	12



### 3-5 受講者の感想

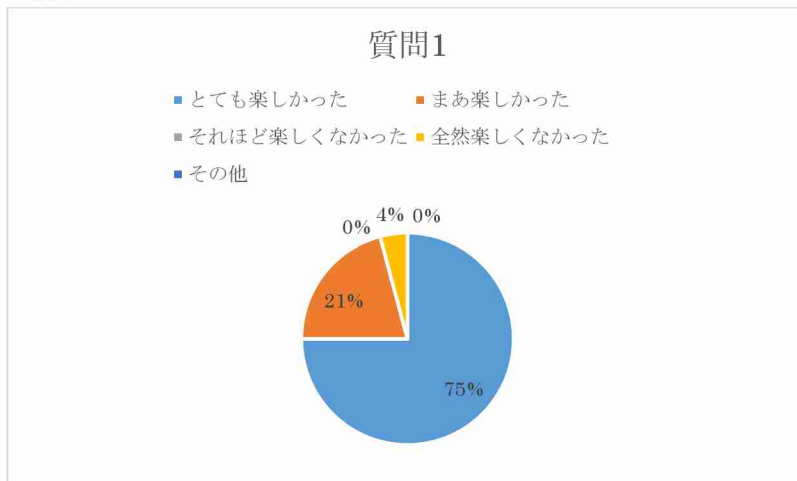
	質問1		質問2		質問3	質問4	質問5	年齢	性別
1	まあ楽しかった	内容の伝え方が面白かったです	まあ勉強になった	伝え方や理屈の説明がとても分かりやすかったけれども知っている内容が大半だったので	他の参加者の「運命」が流れたことに対するコメント	まあ勉強したいと思った		19	男性
2	まあ楽しかった	・電気クラゲは本当に感動しました。	とても勉強になった	・コミュニケーションの話はビジネスにも強く関わる問題で became になった。					
3	とても楽しかった	でんきクラゲとピアノのコラボレーションとてもおちつく感じがでてよかったです。	とても勉強になった	初めて学んだことも多くあり、知しきを得ることができました。佐久はブルーン。					
4	とても楽しかった	音楽の力は教育に役立つ。効率的	とても勉強になった	音楽とコミュニケーションをつなげた学びは両者を比較したいへん分かりやすい。	参加者全体の気持ちが一気に感じられた。	とても勉強したいと思った	体験を伴う学びが大切だと思った。	67	男性
5	とても楽しかった	クイズあったり、実験があったりで堅いイメージとは全く違い楽しかった	とても勉強になった	午前のコーディネートも楽しくできたが、午後からの比較等は生の演奏などで、魅力的でした。	サームさんの体型と音声のギャップに大変驚きました。(ドラえものの画)	まあ勉強したいと思った	視覚情報の錯覚など	69	女性
6	とても楽しかった	講義だけではなく、体を使ったりできたことが楽しかったです。	とても勉強になった	家で孫とやってみようと思った					
7	とても楽しかった	体験できただけで解りやすかった。	とても勉強になった	日常生活に生かせそうだった。B・G・Mの選び方(職場等の)人がいかに聴覚を大事にしているか。	みんなが、心を開いていき、段々楽しんでいっている様子が体験できた。	まあ勉強したいと思った	言語以外のコミュニケーションの練習にはないがあるのか。	55	女性
8	とても楽しかった	初めて会った方々と、音楽を通じて、楽しい時間が過ごせました。コミュニケーションのとり方には色々な方法があるのだなあと思いました。	とても勉強になった	生演奏がとても良かった。ピアノ。		とても勉強したいと思った	今日のなプログラムで良いです。	58	女性

9	とても楽しかった	毎回のことだとは思いますが、自己紹介の仕方がコミュニケーションをとる機会になり、電気クラゲや鈴などの参加しながら学べる授業が良かった。	とても勉強になった	普段は流してしまふようなこともよく考えるときちんと理論があるのだと思った。(火力は電気力学、音のはなし等)	人間は障害の有無とは別に大きい小さいはあれど個性があると感じた。例えば話をどの程度の時間聞いていられるか、コミュニケーションをとれるか 等	とても勉強したいと思った	今回のように実際に学ぶ機会がとれ、授業の面白さを感じました。	19	男性
10	とても楽しかった	皆で音楽に合わせて体を動かしたことは、コミュニケーションで伝える、繋がる体験ができました。	とても勉強になった	体験をおとしての「気付き」があったように思います。	心を温かく、過ごす方法の発見につながる、ものを得られました。	とても勉強したいと思った	日々、流れが速い中で、ゆっくり進んでいくというやわらかな体験ができました。	43	男性
11	とても楽しかった	スズ	とても勉強になった	みなさんとたのしくできました。		とても勉強したいと思った		39	男性
12	とても楽しかった	おんがくすずみなさんとおんがくきてたのしかったです	とても勉強になった	いろいろべんきようになりました。	おんがく	とても勉強したいと思った		43	女性
13	とても楽しかった	座学だけではなく実技を通じて楽しく学ぶことができました。	とても勉強になった	実際に電気クラゲや音楽を通じて、いろいろな人と触れ合うことで、障がいのあるなしに関わらず1人1人の人間同士のつながりを体験することができました。	音楽を通じて、障がいのあるなしに関わらず、会場が一つになれたと感じたこと	とても勉強したいと思った	参加者に感じ、表現が面白かった。	34	男性
14	とても楽しかった	言葉ではなく、体で感じることで、知らない人と知り合えたこと、耳が幸せ、(とても良い音楽に出会えたこと)	とても勉強になった	伝えることの難しさ。	けんごさんのピアノ	とても勉強したいと思った	もう少し体を動かせるもの、もう少し協力し、いろいろな課題の。	49	女性

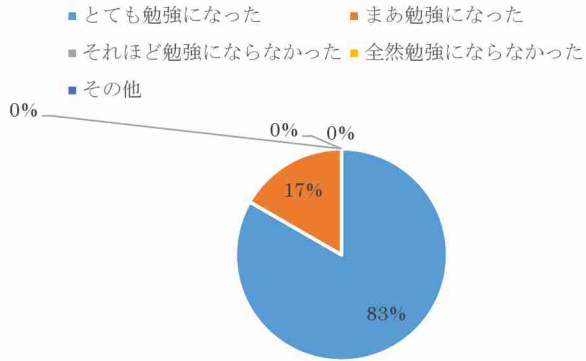
15	まあ楽しかった	大きな音が苦手なので	とても勉強になった			まあ勉強したいと思った			男性
16	とても楽しかった	はじめてたのしくさていました	とても勉強になった	えんそをしくきかせてよかった。	オクがきかせてよかった	とても勉強したいと思った	きよくをきからたい。	18	男性
17	まあ楽しかった		まあ勉強になった		視覚でものをとらえていても、聴覚が入ってくると、感じ方が大きく変わること。 聴覚情報って大切なんだなと思ったこと。	まあ勉強したいと思った	もっと大勢参加ほよかったと思いました		男性
18	まあ楽しかった	はじめ気がまえてしまった…。 音楽で共有できることを感じて楽しくなった	とても勉強になった	・言葉にはできなくても感情は伝わると思った。 ・反対に、聴覚、視覚に障害のある方は…?					
19	とても楽しかった	伝えてくださる方の温かい生のお言葉がきけたので。久のり教授の「ふいちゃえふいちゃえ、下からふいちゃえ!!」というささやきが忘れられません。	とても勉強になった	音楽にはつながる力があることの体験ができたから。つながったら、とても楽しくてドキドキして生きているよるこびを感じる事ができた。ありがとうございました。					
20	全然楽しくなかった	長年飼いだが今月16才で亡くなったのを思い出していやだった。歌詞が心にしみすぎて…泣けてしまった。もっとそばにいたかった。	まあ勉強になった						
21	まあ楽しかった	体操をしながら笑えた	まあ勉強になった	なんとなく					
22	とても楽しかった		とても勉強になった		鈴をつかって皆でピアノを使い、手をたたいたこと。	まあ勉強したいと思った	今までのたなをたがぶらあ	75	女性

							参 加 し た 思 っ た		
23	とても楽しかった		とても勉強 になった						
24	とても 楽しかった	音楽はみんな を仲良くする 力を持っている ことを改めて感 じた。 くらげ飛ばし は導入のとし るところくらげ 飛ばしのつな がりがどうし てつながるか 分かりにくい (伝わりにく いかなと思 いました)	とても勉強 になった	普段 TV など で見ている場 面で音楽が合 っているのを 当たり前と思 っていましたが 、場面にあっ た音楽を選ん だり作ったり しているんだ 、大変なこと なんだと思 いました。	音楽をみんな で楽しめたこ とがとても良 かったです。		音 楽 的 な こ と を 通 分 し て い い と 思 い ま し た。 工 作 美 術 的 な 良 導 指 的 な 方 法 を し る こ と は 思 い ま し た。		女 性

・集計表



## 質問2



## 質問4



2回目 参加者24人							
質問1	質問2		質問4		年齢・性別		
とても楽しかった	18	とても勉強になった	20	とても勉強したいと思った	9	年齢回答者数	13
まあ楽しかった	5	まあ勉強になった	4	まあ勉強したいと思った	6	平均年齢	45
それほど楽しくなかった	0	それほど勉強にならなかった	0	あまり思わなかった	0	男性	9
全然楽しくなかった	1	全然勉強にならなかった	0	全然思わなかった	0	女性	7
その他	0	その他	0	その他	9	未回答	8

### 3-6 まとめ

初めての地方開催となったオープンキャンパスは準備の段階では、佐久市の障害福祉課が開催に前向きな姿勢を示していただき、障害福祉課の紹介により佐久市教育委員会生涯学習課とのつながりも出来、佐久市市議会議長にも開催の説明を行い、佐久市と佐久市教育委員会からの後援を得るところまではスムーズに事が運んだ。

しかしながら、参加の呼び掛けに関しては、「障がい者の学び」「市民と障がい者が学びあう」というフレーズに馴染みがなく、市内すべての福祉事業所に案内を送付したが反応が鈍く、コーディネーターが各福祉事業所をまわって説明をし参加を呼び掛けたが、やはり「文科省の事業」であることが、これまでの厚生労働省所管のイメージからは遠く、積極的なレスポンスを得られなかった。

結局、コーディネーターが合計5回、現地に足を運び、関係各所に直接呼びかけるとともに、信濃毎日新聞に取り上げてもらうなどで情報の拡散を目指し、現地で一緒に広報活動ができる仲間を探した。

そうした中で、障害福祉課を通じてオープンキャンパス会場での物販のお願いをするなどから具体的な福祉作業所とのつながりや、手をつなぐ育成会の母親への説明により、「障害者の学び」への理解を得られ、多くの当事者に参加いただくことができた。参加いただいた方は音楽プログラムで楽しく過ごされた様子で、やはり「参加してよかった」が嬉しい反応であるが、当初から「楽しさ」を伝えるのは困難であり、継続して実施することでコミュニティを機能させていくのが望ましいと考えている。

当日は佐久市障害福祉課も1日にわたって参加いただき、次年度以降は協力してやっていく必要性を感じていたようだった。初めての地方開催はまだ「障がい者の生涯学習」に関しては種まきの段階であり、その一歩として様々な課題が浮かび上がった。

一方で「科学実験プログラム」「音楽プログラム」に関しては学びあいのコンテンツとして、昨年のを検討・再構築した結果、誰もが楽しめるプログラムに改善されたものと考えている。